

「大なわとび」

「だめだ、みつおくん、ぬけてろよ！」
大なわに ひっかかって、ころんでいる みつをくんを にらみつけ
て、けんじくんが、大ごえでいいました。
「みつおくんが、いつも、すぐ、ひっかかって、しまうから、ぼくたち
のはん、また、なわとび大会に、まけちゃうよ。」
まさしくんも、こわい、かおをして、いいました。
みつおくんは、かなしそうな、かおをして、すわったまま、下を、む
いています。
みつおくんの、はんの、ともだちは、すっかり、こまって、しまいま
した。

そのときです。

すみ子さんが、みつおくんの、そばにいき、せなかについた、土を
はらいながら、いいました。

「みつおさん、げんきを、だして。もう一ど、やってみたら。」

みつおくんは、けんじくんや、まさしくんのかおを、みあげて、こま
ったような、かおを、しています。

「れんしゅうしても、だめだよ。」

「なんかい、やっても、だめだもんな。」

けんじくんや、まさしくんが、かわるがわる、つぶやきました。

「みつおさんは、いえにかえると、まいにち、れんしゅうしているの
よ。おとうさんと、おかあさんに、なわをまわしてもらって、いつしよ
うけんめい、とんでいるのを、わたし、なんかいも、みたの。きつと
できるようになるわ。」

と、すみ子さんが、いいました。

それを、きいていた、とも子さんが、

「みつおさんが、じょうずに、とべるように、はじめは、ゆっくり、ま
わして。」

と、いうと、ゆみさんが、

「けんじさん、とびあがる、とき、みつおさんの、かたを、ぽんとたたいて。」

と、いいました。

三人の、はなしを、きいていた、まさしくんが、

「よし、ぼく、大きく、ゆっくり、まわすよ。」

と、いうと、けんじくんも、けっしんしたように、

「よし、やろう！」

と、みつおくんの、手を、とりました。

「一、二、三……。」

さつきより、げんきな、こえが、ひびきました。